

## 漢字のうた【師範代養成コース 三段】

1

熟田津に船乗りせむと月待てば潮もかなひぬ今は漕ぎ出でな  
あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る  
石ばしる垂水の上のさ蔭の萌え出づる春になりけるかも  
わが屋戸のいささ群竹吹く風の音のかそけきこの夕かも  
淡海の海夕波千鳥汝が鳴けば情もしのに古思ほゆ

(『万葉集』所収の和歌、短歌と同じリズムの歌)

2

天地の 分かれし時ゆ 神さびて 高く貴き  
駿河なる 布土の高嶺を 天の原 振り放け見れば  
渡る日の 影も隠らひ 照る月の 光も見えず  
白雲も い行きはばかり 時じくそ 雪は降りける  
語り継ぎ 言ひ継ぎ行かむ 不尽の高嶺は

(『万葉集』所収の長歌)

3

故人西のかた黄鶴楼を辞し

煙花三月揚州に下る

孤帆の遠影碧空に尽き

唯だ見る長江の天際に流るるを

(李白『黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る』)

4

国破れて山河在り

城春にして草木深し

時に感じては花にも涙を濺ぎ

別れを恨んでは鳥にも心を驚かす

烽火三月に連なり

家書万金に抵たる

白頭搔けば更に短く

渾べて簪に勝へざらんと欲す

(杜甫『春望』)